

# 家庭科部会

## 研究主題 自分の考えや思いをもち、よりよい生活を目指していける子どもを育てる指導

### 1 主題について

自分の思いは、家族とのかかわりなしでは考えることはできない。家庭生活をよりよくするためには、生活への関心を高めることが必要である。これらを踏まえ、子どもたちが自分の家庭生活をよりよくしようと意欲を高め、実感を伴った学習を進められるように本主題を設定した。

### 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	8月21日	指導案検討会 (西館小学校)
8月6日	夏季実技研修会 (西館小学校)	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会(西館小学校)

### 3 研究内容

#### (1) 夏季実技研修会

- ・期 日 平成25年8月6日(火)
- ・会 場 西館小学校
- ・研修内容 「夏に食べたい!冷たいお菓子~2種類のゼリー」
- ・講 師 一関宏孝先生(菓子舗「一ノ関」常務取締役)

暑い季節にあったお菓子作りを行った。今回挑戦したのは「グレープフルーツゼリー」と「しゅわシュワサイダーゼリー」の2品である。大北会員6名を含む14名が参加し、4つの班に分かれて調理した。ジュースに火を入れるタイミングや綺麗なフルーツの盛りつけ方などポイントとなる調理の場面では、一関先生からプロの技を教えていただきながら作業が進められた。



【挑戦したゼリー】

盛りつけ方などポイントとなる調理の場面では、会食の場面では、ゼリーのおいしさを味わいながら、普段つくるスポンジケーキやクッキーなどお菓子の作り方についてたくさんの質問が出され、楽しく有意義なひとときを過ごすことができた。

#### (2) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月31日(木)
- ・会 場 西館小学校
- ・題材名 5年「元気な毎日と食べ物」
- ・授業者 武石 陽子  
櫻田 亮子

##### ① 授業者から

- ・これまでは、実験として吸水した米と吸水させていない米を比べたり、かつおだし、にぼしだし、だしなしの味噌汁の味を比べさせたりしてきている。今回は、煮えやすい物と煮えにくい物の具として前時でねぎと油揚げ、本時ではじゃがいもを取り上げた。
- ・夏休みに家庭でサラダを作ってみたり、今回の味噌汁の学習では、おすすめの実を調べたりするなど様々な形で家庭との連携を図っている。

## ② 協議

- ・前時までの授業の様子がよく分かる掲示があったため今回の実験と比較しやすい。
- ・実験の手順、役割分担などの明確な指示があったり、実験しやすい準備がされていたりして、子どもたちが実験に取り組みやすかった。
- ・家庭での実践やインタビューなど、家庭も巻き込んだ学習であり、この学習の必要性を子どもたちがよく意識している。
- ・今回は、水の中に全てのじゃがいもが入った状態で準備されていたが、前時で学んだことを生かして「沸騰してから入れる」と予想している児童がいた。実験の目的を明確にするために授業の導入で「沸騰をしてすぐじゃがいもを入れる」→「かたい」→「では、どうする？」と、流してみたら課題意識も高まったのではないかと。
- ・ゆでる実験は中が見える透明な鍋で行うと効果的である。実験では、子どもたちが実感できる教具を考えていきたい。



【実験をする子どもたち】

## (3) 指導助言 (日沼 良樹 指導主事)

- ・教室内の掲示物や板書が工夫され、前時までの学習の流れを把握できる配慮があった。
- ・前時までの学習を生かし学習課題をつかませることで、本時の活動に必要感をもたせることができた。ゆで時、柔らかさや固さなど、比較するための視点の与え方が適切であった。
- ・串で固さを確かめたり、部位による固さの違いに着目したりするなど、実感を伴って「沸騰」の概念を理解できるような手立てがあった。
- ・夏休みに家庭で調理をする宿題を出したり、みそ汁のおすすめの具をインタビューさせたりするなど、これまで家庭との連携を大切に取り組んできている。よい取組である。これを繰り返し、繰り返し行うことで、家庭科の目標の一つでもある家族の一員としての自覚をもつことにもなる。また、家庭にも学習活動に関心をもってもらえる。家庭科だよりの発行をするなどの提案もよい方法であるが、学年だよりに一言付け加えたりするなどして無理のない範囲で今後も家庭との連携を進めていってほしい。
- ・評価については、国立教育政策研究所から出されている「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を基準にしてほしい。
- ・本時の実験に「沸騰させすぎてもじゃがいもがぼろぼろになってしまう」という実験があってもよかった。児童の予想にもあったし、これをやっておくことで児童は今後生活の中で生かしていけるからである。そのためには、ワークシートに何を書かせるかが大事である。「根拠となることを書こう」などポイントになることもおさえない。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

- ・前時とのつながりのある導入の方法は課題に結びつけるために効果的な方法であった。
- ・計画の段階や本時でも家庭との連携を十分に図っていたものだったため、児童の実生活に結びついていた。

## (2) 課題

- ・子どもの発言を生かした授業展開の工夫にはどのような方法があるか今後考えていきたい。
- ・児童が実感できる実験になるように教具や実験方法を工夫していく必要がある。